
遺っていた宝物

KOTOBUKI

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遺していった宝物

【Nコード】

N61700

【作者名】

KOTOBUKI

【あらすじ】

多くの人に愛され旅立った祖父を偲ぶ・

人生の終わりにあなたと歩いた道を懐かしみ
手を合わせ語ってくれる人がどれほどいるのでしょうか

今思い起こせば自由奔放で豪快な人生を逝き切った祖父でした
世話好きで町内のまとめ役でもあった祖父が夏風邪による肺炎で
急死

突然でした

数日前まで町内の仕事やらで元気な姿を見せていた祖父でした
家族は気持ちの整理もつかぬまま葬儀を執り行ないました

「町の世話好き爺さんの葬儀にしては随分沢山の人が手を合わせて
下さったね」

父は祖父の遺影に話しかけていました

四十九日を過ぎた頃、白髪の見知らぬ婦人に声をかけられました
ご婦人の話はこうです

かかりつけの病院で祖父は偶々隣に座った婦人の旦那様と意気投
合したようです

その旦那様が急に入院なさりそれを耳にした祖父が顔を見せたと
言うのです

自分の診察のない日も毎日毎日旦那様が退院するまで足を運んで
いました

会社の人間さえ訪れないご主人の入院生活に祖父の訪問は何より
の励ましでした

少しずつ明るくなっていく夫を見るのが嬉しかった

そういつて婦人は微笑みました

ただ話にはおかしなおまけが付いていました

ひょっこり現れては大量の果物やら見舞いの品などを頂いて帰っ
たそうな

祖父の来訪を大層喜んでいたご主人からの気持ちだったようです

その後もこのような話はひとつたつでは終わりませんでした
次から次へと漏れ伝わる笑い話のような珍事件

その度に家族は生前の祖父の人生を垣間見、偲びました

この世の中、義理人情・様々な状況の下、人との繋がりには時に煩
わしさを感じるもの

しかし権力者でも大金持ちでもない祖父は生まれ持った人柄と愛
想を手土産に

嫌な顔一つ見せずどこにでも駆けつけました

行く先々で人を和ませ・喜ばせ・歓迎された祖父は皆に愛されて
旅立っていきました

祖父へ想いはこれからも永遠に薄らぐことはないでしょう

家族の体を脈打つお節介で世話好きな血は紛れもなく祖父が遺し
ていったもの

祖父が最期に遺してくれた何よりも嬉しい財産は人でした
今も交流のあるその人たちは祖父から受け継いだ私たち家族の宝
物です

「人生の終わりにあなたと歩いた道を懐かしみ
手を合わせ語ってくれる人がどれほどいるのでしょうか」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6170o/>

遺していった宝物

2011年11月15日00時35分発行